

(別表3-1)モニタリング調査における検出状況(水質・底質)

物質調査番号	調査対象物質	水質 (pg/L)		底質 (pg/g-dry)	
		範囲 (検出頻度)	平均値	範囲 (検出頻度)	平均値
[1]	総 PCB	tr(11)~2,600 (47/47)	150	nd~720,000 (58/61)	5,900
[2]	HCB	4.0~380 (47/47)	16	3.1~8,900 (61/61)	100
[3]	アルドリン	—	—	nd~270 (50/61)	3.7
[4]	ディルドリン	—	—	nd~860 (60/61)	33
[5]	エンドリン	—	—	nd~7,500 (48/61)	6.4
[9]	トキサフェン類				
	[9-1] Parlar-26	nd~5 (7/47)	nd	nd (0/61)	nd
	[9-2] Parlar-50	nd~tr(2) (1/47)	nd	nd~tr(3) (1/61)	nd
	[9-3] Parlar-62	nd (0/47)	nd	nd~tr(20) (1/61)	nd
[10]	マイレックス	nd~1.0 (3/47)	nd	nd~240 (44/61)	1.1
[14]	ポリプロモジフェニルエーテル類(臭素数が4から10までのもの)				
	[14-1] テトラプロモジフェニルエーテル類	nd~72 (22/47)	nd	nd~3,100 (43/61)	21
	[14-2] ペンタプロモジフェニルエーテル類	nd~110 (13/47)	nd	nd~2,800 (53/61)	19
	[14-3] ヘキサプロモジフェニルエーテル類	nd~54 (15/47)	nd	nd~1,300 (52/61)	29
	[14-4] ヘプタプロモジフェニルエーテル類	nd~65 (3/47)	nd	nd~1,900 (46/61)	44
	[14-5] オクタプロモジフェニルエーテル類	nd~69 (35/47)	tr(2)	nd~5,500 (57/61)	100
	[14-6] ノナプロモジフェニルエーテル類	nd~170 (46/47)	12	nd~56,000 (60/61)	690
	[14-7] デカプロモジフェニルエーテル	12~2,700 (47/47)	120	tr(14)~520,000 (61/61)	5,100
[15]	ペルフルオロオクタンスルホン酸(PFOS)	nd~4,100 (42/47)	310	nd~700 (55/61)	43
[16]	ペルフルオロオクタンスルホン酸(PFOA)	160~28,000 (47/47)	1,100	nd~190 (58/61)	23
[17]	ペンタクロロベンゼン	2.7~320 (47/47)	12	1.2~3,400 (61/61)	72
[18]	エンドスルファン類				
	[18-1] αエンドスルファン	nd~tr(50) (1/47)	nd	nd~30 (21/61)	nd
	[18-2] βエンドスルファン	nd~tr(20) (3/47)	nd	nd~41 (11/61)	nd
[20]	総ポリ塩化ナフタレン	nd~260 (39/47)	tr(32)	9.9~34,000 (61/61)	680
[22]	ペンタクロロフェノール並びにその塩及びエステル類ペンタクロロフェノール				
	[22-1] ペンタクロロフェノール	nd~4,400 (44/47)	50	nd~3,900 (59/61)	220
	[22-2] ペンタクロロアニソール	nd~230 (30/47)	tr(10)	nd~160 (53/61)	tr(23)

物質 調査 番号	調査対象物質	水質 (pg/L)		底質 (pg/g-dry)	
		範囲 (検出頻度)	平均値	範囲 (検出頻度)	平均値
[23]	短鎖塩素化パラフィン類				
	[23-1] 塩素化デカン類	nd~1,600 (8/47)	nd	nd~7,000 (7/61)	nd
	[23-2] 塩素化ウンデカン類	nd~3,500 (6/47)	nd	nd~tr(13,000) (7/61)	nd
	[23-3] 塩素化ドデカン類	nd~3,000 (16/47)	nd	nd~38,000 (28/61)	tr(2,000)
	[23-4] 塩素化トリデカン類	nd~11,000 (18/47)	nd	nd~36,000 (24/61)	nd
[25]	ペルフルオロヘキサンスルホン酸(PFHxS)	nd~2,600 (44/47)	190	nd~27 (15/61)	nd

(注1) 「平均値」は幾何平均値を意味する。nd (検出下限値未満) は検出下限値の1/2として算出した。

(注2) 「—」は調査対象外の媒体であることを意味する。

(注3) tr (X) は、Xの値が定量下限値未満、検出下限値以上であることを意味する。

(注4) 短鎖塩素化パラフィン類は塩素数が5から9までのものを測定の対象とした。

また、短鎖塩素化パラフィン類の結果は、測定法に様々な課題がある中での試行において得られた暫定的な値である。

(別表3-2)モニタリング調査における検出状況(生物・大気)

物質 調査 番号	調査対象物質	生物 (pg/g-wet)						大気 (pg/m <sup>3</sup> )	
		貝類		魚類		鳥類		温暖期	
		範囲 (検出頻度)	平均値	範囲 (検出頻度)	平均値	範囲 (検出頻度)	平均値	範囲 (検出頻度)	平均値
[1]	総 PCB	740~12,000 (3/3)	2,000	1,200~280,000 (18/18)	12,000	85,000~130,000 (2/2)	110,000	20~750 (37/37)	110
[2]	HCB	14~28 (3/3)	21	25~900 (18/18)	140	2,600~3,100 (2/2)	2,800	72~140 (37/37)	100
[6]	DDT 類								
	[6-1] p,p'-DDT	32~280 (3/3)	70	tr(2)~4,800 (18/18)	150	29~63 (2/2)	43	0.15~14 (37/37)	1.6
	[6-2] p,p'-DDE	150~2,200 (3/3)	420	290~16,000 (18/18)	1,900	22,000~290,000 (2/2)	80,000	0.31~49 (37/37)	2.6
	[6-3] p,p'-DDD	17~830 (3/3)	110	40~3,100 (18/18)	280	210~260 (2/2)	230	nd~0.72 (36/37)	0.13
	[6-4] o,p'-DDT	10~120 (3/3)	24	tr(1.1)~1,500 (18/18)	34	nd~tr(2.5) (1/2)	tr(1.1)	0.08~6.3 (37/37)	1.0
	[6-5] o,p'-DDE	tr(2)~250 (3/3)	20	nd~2,000 (17/18)	32	tr(1) (2/2)	tr(1)	tr(0.04)~1.2 (37/37)	0.24
[6-6] o,p'-DDD	4.9~720 (3/3)	46	nd~1,100 (17/18)	40	3.7~9.9 (2/2)	6.1	nd~0.38 (36/37)	0.10	
[9]	トキサフェン類								
	[9-1] Parlar-26	nd~tr(15) (2/3)	tr(10)	nd~280 (12/18)	tr(17)	53~54 (2/2)	53	nd~tr(0.3) (12/37)	nd
	[9-2] Parlar-50	nd~17 (2/3)	tr(9)	nd~300 (16/18)	22	tr(11)~tr(13) (2/2)	tr(12)	nd~tr(0.2) (2/37)	nd
	[9-3] Parlar-62	nd (0/3)	nd	nd~150 (3/18)	nd	nd (0/2)	nd	nd (0/37)	nd
[10]	マイレックス	1.8~20 (3/3)	4.9	1.9~70 (18/18)	8.2	47~260 (2/2)	110	0.05~0.2 (37/37)	0.088
[14]	ポリブロモジフェニルエーテル類(臭素数が4から10までのもの)								
	[14-1] テトラブロモジフェニルエーテル類	26~68 (3/3)	36	tr(13)~440 (18/18)	79	280~310 (2/2)	290	0.05~3.9 (37/37)	0.28
	[14-2] ペンタブロモジフェニルエーテル類	tr(5)~23 (3/3)	13	nd~100 (17/18)	21	140~240 (2/2)	180	nd~4.1 (18/37)	tr(0.08)
	[14-3] ヘキサブロモジフェニルエーテル類	nd~34 (2/3)	tr(12)	nd~190 (17/18)	44	330~1,300 (2/2)	650	nd~1.5 (9/37)	nd
	[14-4] ヘプタブロモジフェニルエーテル類	nd~tr(10) (1/3)	nd	nd~58 (11/18)	tr(9)	110~480 (2/2)	230	nd~1.3 (16/37)	tr(0.09)
	[14-5] オクタブロモジフェニルエーテル類	nd (0/3)	nd	nd~74 (8/18)	tr(7)	61~580 (2/2)	190	nd~1.3 (34/37)	0.15
	[14-6] ノナブロモジフェニルエーテル類	nd (0/3)	nd	nd (0/18)	nd	46~53 (2/2)	49	nd~3 (31/37)	0.51
	[14-7] デカブロモジフェニルエーテル	nd (0/3)	nd	nd~tr(110) (2/18)	nd	tr(90)~500 (2/2)	tr(210)	nd~19 (31/37)	2.6
[17]	ペンタクロロベンゼン	tr(5)~tr(13) (3/3)	tr(8)	nd~70 (15/18)	19	280~480 (2/2)	370	30~100 (37/37)	59
[19]	1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロドデカン類								
	[19-1] α1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロドデカン	76~270 (3/3)	120	nd~530 (17/18)	89	590~610 (2/2)	600	—	—
	[19-2] β1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロドデカン	nd (0/3)	nd	nd (0/18)	nd	nd (0/2)	nd	—	—
	[19-3] γ1,2,5,6,9,10-ヘキサブロモシクロドデカン	nd~46 (2/3)	tr(19)	nd~130 (10/18)	tr(11)	nd (0/2)	nd	—	—
[20]	総ポリ塩化ナフタレン	tr(13)~700 (3/3)	58	nd~520 (16/18)	41	220~250 (2/2)	230	5.3~590 (37/37)	86
[21]	ヘキサクロロブタ-1,3-ジエン	—	—	—	—	—	—	150~8,500 (37/37)	3,600

物質 調査 番号	調査対象物質	生物 (pg/g-wet)						大気 (pg/m <sup>3</sup> )	
		貝類		魚類		鳥類		温暖期	
		範囲 (検出頻度)	平均値	範囲 (検出頻度)	平均値	範囲 (検出頻度)	平均値	範囲 (検出頻度)	平均値
[22]	ペンタクロロフェノール並びにその塩及びエステル類ペンタクロロフェノール								
	[22-1] ペンタクロロフェノール	tr(10)~30 (3/3)	tr(20)	nd~80 (13/18)	tr(10)	180~1,200 (2/2)	460	0.9~30 (37/37)	5.1
	[22-2] ペンタクロロアニソール	tr(2)~21 (3/3)	6	nd~73 (16/18)	8	11~20 (2/2)	15	4.6~110 (37/37)	34
[23]	短鎖塩素化パラフィン類								
	[23-1] 塩素化デカン類	nd~tr(400) (2/3)	nd	nd~tr(800) (1/18)	nd	nd~tr(600) (1/2)	nd	tr(130)~1,700 (37/37)	370
	[23-2] 塩素化ウンデカン類	nd (0/3)	nd	nd~tr(700) (1/18)	nd	nd (0/2)	nd	tr(100)~2600 (37/37)	450
	[23-3] 塩素化ドデカン類	nd (0/3)	nd	nd (0/18)	nd	nd (0/2)	nd	tr(60)~880 (37/37)	190
	[23-4] 塩素化トリデカン類	nd (0/3)	nd	nd (0/18)	nd	nd (0/2)	nd	nd~470 (26/37)	tr(100)
[24]	ジコホル	nd~30 (1/3)	nd	nd~280 (9/18)	tr(10)	nd (0/2)	nd	— —	— —

(注1) 「平均値」は幾何平均値を意味する。nd (検出下限値未満) は検出下限値の1/2として算出した。

(注2) 「—」は調査対象外の媒体であることを意味する。

(注3) tr(X)は、Xの値が定量下限値未満、検出下限値以上であることを意味する。

(注4) ヘキサクロロブタ-1,3-ジエンの大気については3検体/地点の測定を行っており、範囲は全ての検体における最小値から最大値の範囲で示し、検出頻度は全測定地点に対して検出した地点数で示した。

(注5) 短鎖塩素化パラフィン類のうち、生物においては塩素数が5から9までのものを測定の対象とし、大気において塩素は塩素数が4から7までのものを測定の対象とした。

また、短鎖塩素化パラフィン類の結果は、測定法に様々な課題がある中での試行において得られた暫定的な値である。